

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）	
島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム	

2. プログラム責任者			
氏名	増野 純二	指導医認定番号	2013-608
所属・役職	島根県立中央病院 地域医療科 部長		
所在地・連絡先	住所 〒693-8555 島根県出雲市姫原 4-1-1 電話 0853-22-5111 FAX 0853-30-6437 E-mail mashino42@spch.izumo.shimane.jp mashinospch@yahoo.co.jp		
連絡担当者氏名*・役職	日下みゆき 医療アシスタント		
連絡先*	電話 0853-22-5111 FAX 0853-30-6437 E-mail <a href="mailto:kenshuc@spch.izumo.shimane.jp">kenshuc@spch.izumo.shimane.jp</a> E-mail <a href="mailto:shokirin@spch.izumo.shimane.jp">shokirin@spch.izumo.shimane.jp</a>		

\* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

3. 専攻医定員	
1年あたり（ 5 ）名 （×研修期間年数＝総定員 15 名）	
<p>※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱28条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する専攻医3名に対して1名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修Ⅰが9カ月の場合、3名ずつが9カ月毎にローテートするならば、3年＝36カ月のプログラムで1年あたり最大4名（36÷9＝4）まで受け入れ可能となる。</p>	

4. プログラムの期間	
（ 3 ）年間	

## 5. 概要

### A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

島根県における地域医療支援システムを基礎として、地域医療を担う医師や家庭医を養成するプログラムである。3年間のプログラムで到達目標の一つは、日本プライマリ・ケア連合学会専門医である。

プログラムの最大の特徴は、地域医療研修にある。ひとつの地域医療機関ではなく、地域医療をおこなう「ブロック制」での研修を行い、診療所-中小病院の診療・保健・福祉関連を同時期に業務の一環として研修が可能な点である。われわれの目指す医師はどのフィールドで活躍するかにかかわらず、地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供できる能力をもった医師を養成することであり、ブロック制での研修はそれを達成するには良い方法であると考えている。

### B. プログラムの理念、全体的な研修目標

#### I 一般目標 (General Instructional Objective : GIO)

地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供するために、求められる役割を理解し問題解決に導ける総合的な知識・技能・態度を習得する。

#### II 行動目標 (Specific Behavioral Objectives : SBOs)

1. 様々な健康問題に対して心理・社会的な問題にも配慮してそれぞれのセッティングにおけるマネジメントができる (外来診療・病棟診療・在宅診療・当直業務・代診業務など)。
2. 地域医療におけるブロック制や地域資源を理解し、医療・保健・福祉と協同して業務を行うことができる。
3. 患者・家族、スタッフなどと良好なコミュニケーションをとることができる。また、ケアにおけるチームのリーダーとしての責任と役割をはたすことができる。
4. 患者教育、スタッフ・研修医教育を行うことができる。
5. 地域における必要な検査手技・治療手技を行うことができる。
6. 継続して学習し、地域における研究にも参加し、発表や投稿を行うことができる。
7. 必要に応じて産業医活動、学校医活動、予防医学、健康診断などを行うことができる。
8. 医師としての社会的役割を理解し、安定した生活を営み、地域での生活を楽しむことができる。

### C. 各ローテーション先で学べる内容や特色

それぞれのブロックの地域性の特徴に応じた研修が可能。たとえば隠岐地区であれば離島の問題、邑智・飯南であれば中山間地の研修などが可能。

### D. 指導体制に関する特長

2015年度においては、一部で一時的に常勤の認定指導医の配置が不可能であり、第9条(3)に則り、認定指導医以外の上級医が在籍しており、プログラム責任者またはプログラム内の認定指導医による週に1回の直接対面または遠隔テレビ会議等による振り返りと3ヶ月に1回の研修先訪問などで研修の質を担保する。

E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法  
 すでに各ブロックではそれぞれに協力体制が出来上がっており、また教育・研修に対する理解も得られているので、それにそって研修が可能である。

F. その他  
 医師としての社会的役割を理解し、安定した生活を営み、地域での生活を楽しむことができる。

G. モデルとなるローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科 (島根県立中央病院)						救急研修 (島根県立中央病院)			小児科 (島根県立中央病院)		
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総合診療専門研修Ⅰ (協力病院・診療所)											
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	選択 (島根県立中央病院)			総合診療専門研修Ⅱ (島根県立中央病院)								

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ ( 6-12 ) カ月		総合診療専門研修Ⅱ ( 6-12 ) カ月	
領域別 研修	内科 ( 6 ) カ月	小児科 ( 3 ) カ月	救急科 ( 3 ) カ月	その他 ( 0-6 ) カ月

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科8カ月、小児科4カ月の間週1回救急科研修したら、内科6カ月、小児科3カ月、救急科3カ月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科+小児科の12カ月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科8カ月と小児科4カ月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は8→6カ月、小児科は4→3カ月）で記載して下さい。

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	隠岐島前病院（島前ブロック）	診療科名（ 内科・小児科 ）		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（ 44 ）床 診療科病床数（ 20 ）床		
総合診療専門研修 I における研修期間		（ 6-12 ）カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	白石吉彦	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-567 ）
指導医氏名 2	白石裕子	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-566 ）
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>ケアの内容</b>				
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど				
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事				
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
■患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 （ ）				
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 （ ）				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（ 宿直含め、24時間対応 ）				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（ 外来担当日を設定し対応する ）				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（ 一般病床および療養病床にて行う ）				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（ 1/週程度の医療・福祉合同カンファレンスで対応 ）				
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（ 島前地区唯一の入院施設・24時間対応であり、様々な年齢層が受診する ）				
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（ 健康教育など行う ）				
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度（ 定期的な訪問診療を行う。急変などでは入院、在宅、搬送などで対応 ）				
週当たり研修日数：（ 5 ）日/週 ※本研修（総合診療専門研修 I）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				
内容	内視鏡研修、診療所研修			
日数	1日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	隠岐病院（島後ブロック）	診療科名（ 内科 ）		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（115）床 診療科病床数（一般91）床		
総合診療専門研修 I における研修期間		（ 6-12 ）カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	加藤一朗	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2012-32 ）
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input checked="" type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 （ 救急外来診療を通じて小児診療を行う、小児科指導医のもと小児科研修を行なう ）				
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 （ ）				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（島内で唯一の入院病床を持つ病院であり、24時間体制である）				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（ 外来診療を通じて ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（ 外来、入院診療を通じて ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（ 連携室などを通じて ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（ 外来診療など ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（ 住民教育、BLS講習などを通じて ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度（ 24時間対応での救急・入院診療 ）				
週当たり研修日数：（ 4 以上 ）日/週				
※本研修（総合診療専門研修 I）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				
内容	内視鏡研修			
日数	1日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	邑智病院 (邑智ブロック)	診療科名 (	内科	)
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき →	病院病床数 (98) 床	診療科病床数 (50) 床
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6-12 ) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input type="checkbox"/> 配置あり <input checked="" type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※) 総合診療 I もしくは II の片方の研修のみ行う			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( 週1回邑智病院小児科にて補完研修を行う。 ) <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ( )				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (島内で唯一の入院病床を持つ病院であり、24時間体制である)				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 ( 外来診療を通じて )				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 ( 外来、入院診療を通じて )				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 ( 連携室などを通じて )				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 ( 外来診療など )				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 ( 住民教育、BLS 講習などを通じて )				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 ( 24時間対応での救急・入院診療 )				
週当たり研修日数：( 4 以上 ) 日/週 ※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				
内容	内視鏡研修、専門科研修 (島根大学、島根県立中央病院などの他病院での研修含め)			
日数	1日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	大曲診療所	診療科名 ( 家庭医療科 )		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (115) 床 診療科病床数 (一般 91) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		( 6-12 ) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3か月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	藤原和成	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2012-207 )
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど				
<input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )				
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ( )				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (在宅支援診療所であり、複数医師での対応。同一法人の救急病院の出雲市民病院の支援あり)				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来診療などで対応。訪問診療は主治医性)				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (外来診療などで対応。保育園の園医も行う)				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (近隣医療機関、特に出雲市民病院、島根県立中央病院との連携で対応)				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (家庭医療科での対応。家族単位を考慮して診療にあたっている)				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (住民教育、健康学習など)				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (家庭医療科にて研修。在宅・グループホーム・特定施設などにも対応)				
週当たり研修日数：( 5-5.5 ) 日/週 ※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				
内容	専門科研修など			
日数	1日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	飯南町立飯南病院	診療科名 ( 内科 )		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 ( 48 ) 床 診療科病床数 ( 48 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		( 6-12 ) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	角田 耕紀	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2014-1755 )
指導医氏名 2	石橋 和樹	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2013-474 )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))				
<b>ケアの内容</b>				
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど				
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事				
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )				
■上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ( 当院では週2回の小児科非常勤医師による小児外来診療日があり、外来診療研修の機会を得られるようにしている。また小児科外来のない日の一般外来では小児患者の比率が高くなる傾向があり、同日の一般外来診療を担当頂く事で、外来にて小児患者をなるべく多く経験できるように対応を心がけている。 )				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 ( 救急告示病院であり24時間対応を行っている )				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 ( 主治医として外来、入院切れ目なく診療を提供している )				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 ( 救急対応から、その後の経過観察も含めて後期研修医が担当できる対応をもっている )				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 ( 地域包括医療・ケア推進を図っており、日常的に介護施設等との協力関係がある )				
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 ( 小児、成人、高齢者を問わず外来受診がある )				
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 ( 糖尿病療養支援チームや町の保健福祉課との対応を行っている )				
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 ( 定期訪問診療ならびに在宅療養者の24時間支援体制がある )				
週当たり研修日数：4日/週 ※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				
内容	他医療機関での専門科研修			
日数	1日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	益田地域医療センター医師会病院		診療科名 ( 内科 )	
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (343) 床 診療科病床数 ( 216 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		( 6-12 ) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	狩野 稔久	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2015-0010 )
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))				
<b>ケアの内容</b>				
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど				
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事				
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )				
■上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 (併設診療所での小児科研修、学童健診などの診断 )				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 ( 救急指定病院 日当直及び待機制度を含め 24時間体制 )				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 ( 外来診療を通じて )				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (一般病棟、地域包括ケア病棟、保健予防センター、療養病棟、特殊疾患病棟、緩和ケアチーム)				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 ( 医師会立の共同利用施設、地域医療・介護連携センター (仮称) 開設予定、介護施設併設)				
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 ( 外来診療など )				
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 ( 市民公開講座、医師会まつり、BLS講習、健康教室 )				
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 ( 24時間対応での救急・入院診療、4箇所にあるへき地出張所を巡回 )				
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				
内容	内視鏡研修、リハビリ研修 (リハビリセンター)、専門科研修 (島根県立中央病院などの他病院での研修も含む)			
日数	1日/週			

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名 1	浜田市国民健康保険 弥栄診療所	診療科名 ( 内科・眼科 )		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 ( ) 床 診療科病床数 ( ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		( 12 ) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	阿部 顕治	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-3)
指導医氏名 2	飯島 慶郎	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-37)
指導医氏名 3	宮本 雄一	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-281)
指導医氏名 4	北條 宣政	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2003-19)
指導医氏名 5	佐藤 誠	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-125)
指導医氏名 6	佐藤 優子	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0952)
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)				
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))				
<b>ケアの内容</b>				
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど				
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事				
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
■患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )				
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ( )				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 ( 時間外は看護師の携帯電話に電話が転送される。電話での対応の後に必要のある場合は診療を行っている。)				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 ( 定期的な再診外来の時間を設け、予約診療を行う。急性疾患についても担当する。 )				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 ( へき地診療所における全ての健康問題に対応し指導を受ける。 )				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 ( 多職種との連携を要する様なケースを担当する (特に訪問診療患者など)。地域ケア会議に参加する。)				
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (同一世帯の小児の予防接種から高齢者のケアまで幅広い年齢層の患者の健康問題に対応している。)				
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容与方法 ( 18年間地域全体の脳卒中予防に取り組んできた。保健師と連携しての地域全体のケアを行っている。 特定の集落を担当し、地域住民の健康の状態の把握から介入をして、その成果を評価する。)				

<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度（現在の訪問診療の患者数は10名おり、在宅看取りも年間数件行っている。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（4～5）日/週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数</p>	
内容	<p>研修医の希望に応じて行う。 浜田医療センターなどで行われる超音波検査、内視鏡検査の技術研修や専門科外来研修。</p>
日数	<p>多くても1日/週まで。</p>

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ				
研修施設名2	浜田市国民健康保険あさひ診療所	診療科名（内科、小児科、整形外科）		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床    診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		（ 12 ）カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※） <small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>			
指導医氏名1	佐藤 誠	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-125)
指導医氏名2	北條 宣政	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2003-19)
指導医氏名3	佐藤 優子	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0952)
指導医氏名4	宮本 雄一	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-281)
指導医氏名5	阿部 顕治	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-3)
指導医氏名6	飯島 慶郎	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-37)
<p>※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）</p>				
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>ケアの内容</b>				
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど          ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事          ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>				
<b>施設要件</b>				
<p>■患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。  <input type="checkbox"/>上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。          研修診療科で小児を診る工夫・方法          （ ）  <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。          具体的な補完方法          （ ）</p>				
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。          具体的な体制と方略（時間外は医師の携帯電話に転送され、必要時に診療を行っている。）</p>				
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。          具体的な体制と方略（定期的な再診外来の時間を設け、診療を行う。）</p>				

<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（へき地診療所における全ての健康問題に対応することで研修を積む。）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（多職種との連携を要する様なケースを担当してもらう。地域ケア会議に参加する。）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（同一世帯の小児の予防接種から高齢者のケアまで幅広い年齢層の患者の健康問題に対応している。）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（地域ケア会議に参加。住民への健康講話も行政や自治会と連携して行っている。）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度（現在8名の訪問診療患者がいる。往診は月数件はあり、訪問看護師やケアマネージャーと連絡を取りながら対応をしている。在宅看取りは年間0～2名ほど行っている。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（4～5）日/週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数</p>	
内容	<p>研修医の希望に応じて行う。 浜田医療センターなどで行われる超音波検査、内視鏡検査の技術研修や専門科外来研修</p>
日数	<p>多くても1日/週まで。</p>

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ					
研修施設名2	浜田市国民健康保険波佐診療所	診療科名（	内科・小児科	）	
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数（		）床 診療科病床数（	
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（12）カ月				
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※） <small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>				
指導医氏名1	宮本 雄一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-281)	
指導医氏名2	北條 宣政	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2003-19)	
指導医氏名3	佐藤 優子	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0952)	
指導医氏名4	佐藤 誠	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-125)	
指導医氏名5	阿部 顕治	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-3)	
指導医氏名6	飯島 慶郎	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2012-37)	
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要（審査有）					
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））					
<b>ケアの内容</b> <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加					
<b>施設要件</b> <input checked="" type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。					

<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )	
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ( )	
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 ( 時間外は医師の携帯電話に転送され、必要時に診療を行っている。 )	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 ( 定期的な再診外来の時間を設け、診療を行う。 )	
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 ( へき地診療所における全ての健康問題に対応してもらい研修を積む。 )	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 ( 多職種との連携を要する様なケースを担当してもらう。地域ケア会議に参加する。 )	
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (同一世帯の小児の予防接種から高齢者のケアまで幅広い年齢層の患者の健康問題に対応している。 )	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (住民への健康講話などを行っている。保健師と連携しての地区全体へのケアを行っている。 )	
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (現在 8 名の訪問診療患者がおり、年間数件の在宅看取りも行っている。 )	
週当たり研修日数：( 4～5 ) 日/週 <small>※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に 4 日以上行わなければならない。          ※休日は含まない。</small>	
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数	
内容	研修医の希望に応じて行う。 浜田医療センターなどで行われる超音波検査、内視鏡検査の技術研修や専門科 外来研修。
日数	多くても 1 日/週まで。

6-1. 総合診療専門研修 I				
研修施設名	津和野共存病院	診療科名 ( 内科 )		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 ( 99 ) 床 診療科病床数 ( 50 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		( 12 ) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
<small>※同一施設で 3 カ月以上ずつの 2 ブロックに分けることのみ可能。          「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。</small>				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
<small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>				
指導医氏名 1	須山 信夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 第 2013-306 号 )
指導医氏名 2	飯島 献一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 第 2014-0535 号 )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				

**施設要件**

□患者層：当該診療科において（施設全体ではない）専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。

□上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。

研修診療科で小児を診る工夫・方法

（ ）

■上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。

具体的な補完方法（小児は週1外来を小児科で予定）

■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。

具体的な体制と方略（かかりつけ医として、訪問診療患者また介護老人保健施設と特別養護老人ホームの協力病院の機能も果たしており、当該患者に対して訪問看護ステーションと協力し24時間体制に対応する。）

■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。

具体的な体制と方略（一般病床、亜急性期病床に加え、同一経営基盤のもと、診療所、介護老人保健施設、在宅専門診療所、訪問看護ステーションを運営しており、病態の推移に応じて継続的な診療が可能である。）

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。

具体的な体制と方略（健診、各種の予防啓蒙活動も積極的に行っており、癌あるいは非癌の緩和ケアについても、在宅療養・施設療養の両面から担当している。）

■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。

具体的な体制と方略（益田二次医療圏内の急性期病院とも連携室等を通じた密接な協力関係を構築しており、同一建物内の地域包括支援センターと日々情報交換し、特別養護老人ホーム、グループホームは訪問診療を行っており連携を密に行っている。）

■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。

具体的な状況（前身は厚生農業協同組合連合会立の病院であり、その時代より祖父母から父母、子、孫へと調子が悪ければ同院をまず受診するという受療行動が一般的であったため、その伝統をひきつぎ年代の異なる同一家族の構成員が受診することが多く、家族としての健康のデータが蓄積されている。）

■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。

具体的な内容与方法（認知症、生活習慣病等の研究会や講演会、院内健康教室等も実施しており、また行政の地域医療対策課（地域包括支援センターを含む）が病院内に設置してあり行政とともに地域の課題を解決し町行政の活動などへの積極的な協力も含め健康維持増進の活動を計画的に実施している。）

■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。

それぞれの概ねの頻度（月に在宅5回、グループホーム6回、特別養護老人ホーム6回程度）

週当たり研修日数：（ 5 ）日/週

※本研修（総合診療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。

※休日は含まない。

総合診療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。

内容	小児科(院内)で週1回研修を行う。
日数	日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	島根県立中央病院	診療科名 ( 総合診療科 )		
施設情報	病院病床数 ( 634 ) 床	診療科病床数 ( フリー病床だが20程度 ) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		( 6-12 ) カ月		
研修期間の分割	□なし ■あり (分割について具体的に記入してください: )			
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	増野純二	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	( 2013-0608 )
指導医氏名2	今田敏宏	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	( 2014-0353 )
指導医氏名3	中村 嗣	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	( 99-76 )
指導医氏名4	木村清志	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	( 98-137 )
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))				
<b>ケアの内容</b>				
■病棟診療: 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。				
■外来診療: 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している				
<b>病棟診療: 以下の全てを行っていること</b>				
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (施設からの患者、誤嚥、摂食障害などの患者対応)				
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (高齢者、診断不確定者などに対する対応)				
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (多くの専門科のある病院であり、常に対応可能)				
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (MSW、医療安全推進室などと協力)				
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (緩和医療チームと協力)				
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (地域医療連携室と協力)				
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (救急外来、一般外来との協力)				
<b>外来診療: 以下の診療全てを行っていること</b>				
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (ER型救急外来、総合診療科外来で研修)				
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修)				
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修)				
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修、指導医は臨床疫学のトレーニングを受けている)				
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 (総合診療科外来で研修)				
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 (総合診療科外来、病棟で研修)				
週当たり研修日数: ( 5 ) 日/週				

※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	必要により各専門科の外来研修可能（調整は必要）
日数	1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	隠岐島前病院（島前ブロック）	診療科名（	内科・小児科）	
施設情報	病院病床数（44）床	診療科病床数（	20）床	
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		（6-12）カ月		
研修期間の分割	■なし □あり（分割について具体的に記入してください）			
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	白石吉彦	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	（2013-567）
指導医氏名2	白石裕子	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	（2013-566）
指導医氏名3		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>ケアの内容</b>				
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。				
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（施設からの患者、誤嚥・摂食障害などの患者の対応）				
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（特に高齢者における複数疾患合併の患者への対応）				
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（三次医療機関（中央病院など）と連携：遠隔画像システム・テレビ会議システム・ドクターヘリなど）				
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（連携室など含めた多職種でのワークアップを行う）				
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（入院診療、在宅診療などで対応）				
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（連携および1/週のケア・カンファ（病院・施設・行政含むカンファ）で対応）				
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（入院施設有、対応可能）				
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること				
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急ではファーストタッチ・バックアップ含めて行う。内科外来で初診を担当する）				
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科外来で担当）				
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（内科外来で担当）				

■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（中央病院との1/週のTV会議システムカンファレンスなどで対応）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（内科外来で担当）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（内科外来・病棟で対応、中央病院などとの連携：TVカンファ、紹介など含め）	
週当たり研修日数：（ 5 ）日/週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	内視鏡研修など
日数	1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	隠岐広域連合立隠岐病院（島後ブロック）	診療科名（	内科	）
施設情報	病院病床数（ 115 ）床	診療科病床数（	一般91	）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月			
研修期間の分割	■なし □あり（分割について具体的に記入してください：）			
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	加藤一朗	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ 2012-32 ）
指導医氏名2		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名3		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>ケアの内容</b>				
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。				
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（施設からの患者、誤嚥・摂食障害などの患者の対応）				
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（特に高齢者における複数疾患合併の患者への対応）				
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（外科・整形外科など専門医のいる科は直接に、いない科は中央病院などと連携）				
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（連携室など含めた多職種でのワークアップを行う）				
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ペインクリニックを行う麻酔科などと協力して行う）				
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（連携室と協力）				
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（診療所医師との連携、救急外来・一般外来との協力）				

<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること	
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急ではファーストタッチ・バックアップ含めて行う。内科外来で初診を担当する）	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科外来で担当）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（内科外来で担当）	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（中央病院とのカンファレンスなどで対応）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（内科外来で担当）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（内科外来・病棟で対応、中央病院などとの連携）	
週当たり研修日数：（ 4 以上 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	内視鏡研修など
日数	1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	公立邑智病院（邑智ブロック）	診療科名（	内科	）
施設情報	病院病床数（ 98 ）床	診療科病床数（	50	）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月			
研修期間の分割	■なし □あり（分割について具体的に記入してください：）			
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし → 特例申請（※）総合診療ⅠもしくはⅡの片方の研修のみ行う			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名2		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名3		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>ケアの内容</b>				
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。				
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（施設からの患者、誤嚥・摂食障害などの患者の対応）				
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（特に高齢者における複数疾患合併の患者への対応）				

■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（いない診療科は近隣医療機関（安佐市民病院、島根県立中央病院など）と連携）
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（連携室など含めた多職種でのワークアップを行う）
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（入院・在宅にて行う）
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（連携室と協力）
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（24時間入院対応可能）
外来診療：以下の診療全てを行っていること
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急ではファーストタッチ・バックアップ含めて行う。内科外来で初診を担当する）
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科外来で担当）
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（内科外来で担当）
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（セミナーなどや中央病院とのカンファレンスなどで対応）
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（内科外来で担当）
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（内科外来・病棟で対応、中央病院などとの連携）
週当たり研修日数：（ 4 以上 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。
内容 内視鏡研修など
日数 1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	飯南町立飯南病院	診療科名（	内科	）
施設情報	病院病床数（ 48 ）床	診療科病床数（	48	）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（分割について具体的に記入してください： <input type="checkbox"/> ）			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	角田 耕紀	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2014-1755 ）
指導医氏名2	石橋 和樹	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-474 ）
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する				

■救急医療を提供している	
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること	
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（ 高齢者の入院が多数を占めており、高齢者のケアについて研修する環境がある ）	
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ 内科は臓器別でなく、すべての主訴に対する対応を行っている ）	
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（ 非常勤医師として専門診療科医師の勤務があり、適宜コンサルトできる環境にある ）	
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（ 医局カンファレンスや保健センターとの定期合同カンファレンス等で対応している ）	
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ 癌患者の入院、在宅緩和ケアを提供している ）	
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ 院内訪問看護ステーションならびに隣接する包括支援センターと適宜情報共有している ）	
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（ 24時間体制で入院対応できる体制を有している ）	
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること	
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 救急告示病院として救急体制を整えている ）	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 内科は臓器別に分かれておらず、また外科系主訴等にも対応を行っている ）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 外来診療にてよくある症候・疾患を経験できる体制を有している ）	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ 全医師参加カンファレンスならびに学会参加・セミナー対応など行っている ）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 内科は臓器別に分類されておらず、複数症状に対応を行っている ）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 島根県立中央病院総合診療科とのカンファレンスなど ）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	他医療機関での専門研修
日数	1日／週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	益田地域医療センター医師会病院	診療科名（ 内科 ）		
施設情報	病院病床数（ 343 ）床	診療科病床数（ 216 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		（ 6-12 ）カ月		
研修期間の分割	■なし □あり（分割について具体的に記入してください）			
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし → 特例申請（※）			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	狩野 稔久	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ 2015-0010 ）
指導医氏名2		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名3		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	（ ）

要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<b>ケアの内容</b>	
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。	
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。	
<b>施設要件</b>	
■一般病床を有する	
■救急医療を提供している	
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること	
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（ 医師会員からの紹介、施設からの患者、誤嚥・摂食障害などの患者の対応 ）	
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ 特に高齢者における複数疾患合併の患者への対応 ）	
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（ 外科・整形外科などの専門医のいる科は直接、いない科は益田赤十字病院と連携 ）	
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（ 地域連携室を含めた多職種でのワークアップを行う。 ）	
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ 外科医を中心とした緩和ケアチームにて対応 ）	
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ 地域連携室・退院調整看護師との協力、地域医療・介護連携センター（仮称）開設予定 ）	
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（ 医師会立の共同利用施設としてかかりつけ医と連携、24時間入院体制 ）	
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること	
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 救急ではファーストタッチ・バックアップを含めて行う。内科外来で初診を担当する。 ）	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 内科外来で担当 ）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 内科外来で担当 ）	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ 合同カンファレンスの実施、セミナーなどで対応 ）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 内科外来で担当 ）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 内科外来・病棟での対応、益田赤十字病院などの他病院と連携 ）	
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	内視鏡研修、リハビリ研修（リハビリセンター）、専門科研修（島根県立中央病院などの他病院での研修も含む）
日数	1日/週

<b>6-2. 総合診療専門研修Ⅱ</b>		
研修施設名	津和野共存病院	診療科名（ 内科 ）
施設情報	病院病床数（ 99 ）床	診療科病床数（ 50 ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6 ）カ月	

研修期間の分割	■なし □あり (分割について具体的に記入してください：)			
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	須山 信夫	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	(第 2013-306 号)
指導医氏名 2	飯島 献一	■常勤 □非常勤	指導医認定番号	(第 2014-0535 号)
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))				
<b>ケアの内容</b>				
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。				
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している 救急告示は行っていないが救急対応は行っている				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (高齢者の多い島根県の中でもさらに高齢化の進んだ圏域であり、在宅療養中の高齢者や施設利用中の高齢者の病状の変化に対応する機会が多い。高齢者 (特に虚弱) には訪問診療を行い在宅訪問看護などとも協力しながら高齢者 (特に虚弱) のケアも行っている。)				
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (内科は総合的な一般診療を取り扱う科としての位置づけで機能している。臓器別の枠組みを設けることなく、共有する部分を維持しながら診療にあたっている。)				
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (非常勤医による専門外来への相談、またこれを窓口としてその派遣先である島根大学、益田赤十字病院、益田医師会病院への入院も円滑に行える環境にある。)				
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (成人・高齢者の入院患者は複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱えており地域包括ケアの実践を行う。複雑事例では病院内の医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、連携室員での週一回のカフェインのみではなく、家族を含めた地域でのケアマネージャー、保健師、訪問看護師と協働して問題解決をはかる。)				
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (圏域内の高度急性期病院からの紹介患者の癌患者のみならず難病患者のレスパイト入院など非癌患者の緩和ケアについても組織的な連携を図っている。)				
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (病院内の医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、連携室員のみではなく、家族を含めた地域でのケアマネージャー、保健師、訪問看護師と協働して退院カフェインを行い退院にあたっての問題解決をはかり退院支援を図る。)				
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (併設する訪問看護ステーションの利用や地域包括支援センターとの連携のもと、遅滞なく円滑な対応が図れるよう医療介護連携室が中心になって調整を図っている。)				
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること				
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (初診外来は週 5 日午前中に、救急外来は一次および軽度二次救急を主体に対応している。)				
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (内科一般の初診患者については、診療科を指定した紹介患者以外、最初からサブスペシャリティを特定してはいない。関連臓器を恣意的に特定はせず、広い領域の診療にあたらなければならない体制である。)				
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (common diseases については一通り診療できる環境にある。)				
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (外来終了後同日中に、診療した外来患者の検討を行っており、臨床推論や EBM の観点からも見直しを実施する。また 1 日の終りには指導医と一緒に振り返りを行い今日出来たこと、できなかったこと、次はどうしたいかなど指導医と一緒に学び成長する環境を提供する。)				

<b>■複数の健康問題への包括的なケア</b> 具体的な体制と方略（院内の専門各科や医療介護連携室等とも連携し包括的な対応を図っている。）	
<b>■診断困難患者への対応</b> 具体的な体制と方略（週一回の割合で入院総合カンファレンスを開催しており、その際、診断や治療に苦慮する患者について専門医を含む他医に相談することができる。入院に限らず、困難事例については、チームで考えていく土壌がある。）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日／週 <small>※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。          ※休日は含まない。</small>	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	内容 ポートフォリオの作成支援・家庭医療カンファレンス 島根大学医学部総合医療学講座による週一回のテレビ会議によるカンファレンス参加、教育レクチャー（家庭医の特徴、診療技術、地域包括ケアの意味など）のレクチャーを週0.5日行う。また、領域別研修（整形外科・精神科・産婦人科・耳鼻科・眼科・泌尿器科など）の外来研修も週0.5日並行して行う。
日数	1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	益田赤十字病院	診療科名（ 一般内科 ）		
施設情報	病院病床数（ 327 ）床	診療科病床数（ 308 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		（ 6 ）カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（分割について具体的に記入してください： ）			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請（※）			
<small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>				
指導医氏名1	木谷 光博	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（第2014-0364号）
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>ケアの内容</b>				
<b>■病棟診療：</b> 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <b>■外来診療：</b> 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している				
<b>病棟診療：</b> 以下の全てを行っていること				
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（高齢化のすすむ圏域をカバーしていることから、患者の約6割は高齢者といえる。要介護の虚弱高齢者の入院前の生活状態は、在宅療養中、施設入所中と様々で、患者の急変に対応する機会は往々に発生する。ケアにかかわった者と連携して情報を役立て、急性期医療につなげている。）				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（高齢者や社会的にも問題を抱える患者に対して主治医機能を担当しながらも、総合病院ならではの診療科や各部門による横断的なチーム医療を展開している。）				

<p>■必要に応じた専門医との連携  具体的な体制と方略（当地域での療養希望に対して、院内の各専門医での対応が困難であったりサポートが必要な場合は、大学病院等との連携により医師を招聘し補っている。また逆に、より高度な専門治療が必要な場合は、相応な医療機関への紹介を行う体制が出来ている。）</p>	
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応  具体的な体制と方略（複雑事例と認識したものについては、家族も含め、早期段階より医師、看護師、MSW、臨床心理士、コメディカル等と、また行政機関や地域の医療、介護、福祉関係機関等の必要多職種での検討を随時重ね問題解決をはかっている。）</p>	
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア  具体的な体制と方略（癌患者や家族に対して、それに携わる医師、看護師、薬剤師等を中心の研修会で、緩和ケアの知識習得に努力している。患者会への積極的な講演や相談体制を提供し、疾病はもちろん心理的サポートも行っている。）</p>	
<p>■退院支援と地域連携機能の提供  具体的な体制と方略（退院の方針決定にあわせ、医師、看護師、コメディカル、患者に関わる医療、介護、福祉の各機関等の多職種が協力し、MSW が中心となってスムーズな退院支援に努めている。）</p>	
<p>■在宅患者の入院時対応  具体的な体制（在宅、施設入所の別にもより、ケアへかかわった家族、かかりつけ医やケアマネージャー等と連携して、看護師やMSW の介入で入院時から退院調整へつなげている。）</p>	
<p><b>外来診療：</b>以下の診療全てを行っていること</p>	
<p>■救急外来及び初診外来  具体的な体制と方略（救急外来は毎日 24 時間体制で一次および二次救急に、初診外来は各外来で平日午前に対応している。）</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者  具体的な体制と方略（まずは初診担当の医師による診察が行われ、その結果によって総合病院ならではの院内専門医へのコンサルト、紹介が行われている。）</p>	
<p>■よくある症候と疾患  具体的な体制と方略（common diseases については診療できる環境にある。）</p>	
<p>■臨床推論・EBM  具体的な体制と方略（日々の診療で生じる疑問点については、その都度、指導医と意見を交わし、臨床推論や EBM の観点からの的確な診断と治療が出来るための学びの場を設けている。）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア  具体的な体制と方略（院内専門医や MSW、地域連携室、更に必要に応じてかかりつけ医やケアマネージャー等とも連携し、包括的な対応を図っている。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応  具体的な体制と方略（診断や治療に困難を認める症例については、必要随時にカンファレンス等行い、チームとして検討しており、他院の専門医等に相談することもできる。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 4.5 ）日/週  ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。  ※休日は含まない。</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。</p>	
内容	メンター（指導医）による面談、相談にあわせ、臨床、実践経験したプライマリーな疾患に対する教育 レクチャー。
日数	0.5 日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名	出雲市民病院	診療科名 ( 一般内科 (家庭医療科) )		
施設情報	病院病床数 ( 180 ) 床	診療科病床数 ( 60 ) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		( 9 ) カ月		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください: 4月～7月の4ヵ月間、11月～3月の5ヵ月間に分割する。8月～10月の3ヵ月間は、選択研修を組み込む。)			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	高橋 賢史	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2012-81 )
指導医氏名2	小松 泰介	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2014-0271 )
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (入院患者、外来患者とも大半が高齢者である。主治医意見書作成件数は月5件程度。自宅生活継続に不安定性を有する患者もいるため、院内スタッフ、地域のスタッフ、地域住民と適宜相談を行いながらケアを提供している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (全ての内科疾患の入院患者を当科が担当し、整形外科入院患者の内科対診を行っている。高齢者の入院が大半を占めるため各臓器別の疾患を同時に合併し、疾患のみならず介護の調整を必要とするケースも多い。他専門科へのコンサルテーションの際にも、主治医として可能な限りアプローチを進めた上で専門科でなければ対応できない問題に対してコンサルテーションを行う。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (整形外科常勤医にコンサルテーション可能。大学病院医師による循環器内科、呼吸器内科、血液内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、外科の外来支援があり、その際に適宜コンサルテーションが可能。また、近隣に大学病院、県立中央病院、精神科病院・クリニックがあり連携可能。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (毎週、看護師、MSW、セラピストを交えたカンファレンスを行い、検討している。院内倫理委員会もあり倫理問題事例も適宜相談可能である。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (各種悪性疾患患者の在宅療養が困難な場合の入院による緩和治療・看取りを行っている。また、末期腎不全、透析困難症患者の緩和ケアを行っている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (MSW や看護師任せではなく、当科主治医が退院に際して必要な介護サービスの調整を検討している。圏域の在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリを主治医がほぼ把握し、MSW やケアマネージャーと連携して、患者が適当な在宅ケアを受けることが出来るよう調整している。退院前共同指導も積極的に行っている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (複数の在宅療養支援診療所の後方支援病院となっており、在宅患者の肺炎、尿路感染症、急性心不全などの入院加療や、ALS患者のレスパイト入院などを行っている。)				
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること				
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来				

<p>具体的な体制と方略（一般内科外来の中で家庭医療科外来を行っている。家庭医一人が週2回程度外来を担当し、救急外来や当直もやっている。）</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者          具体的な体制と方略（一般内科外来の中で家庭医・家庭医療後期研修医の担当は家庭医療科外来としてやっている。院内院外紹介、初診、内科疾患以外の主訴、精神科関連主訴、小児（病院として標榜はしていないが受診された場合）の対応もやっている。特に初診・再診の区別はしていない。）</p>	
<p>■よくある症候と疾患          具体的な体制と方略（家庭医療科外来では9割以上は日常的な健康問題が持ち込まれる。内科疾患だけではなく、非選択的な問題についての相談、診療、介護の問題についても対応を行う。）</p>	
<p>■臨床推論・EBM          具体的な体制と方略（月2回程度の症例検討会にて外来ケースについても検討を行う。ケースのプレゼンから鑑別診断を集团的に挙げ、臨床推論をトレーニングする手法を用いる。DynamedやUpToDateなどの電子媒体を利用し、最新知見も交えながら診療についての家庭医集団の質統一を図っている。）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア          具体的な体制と方略（複数の健康問題を抱える患者には、外来では優先順位を意識して問題解決を図る。可能な限り家庭医で複数の問題の解決を図るが、必要に応じて臓器専門医の外来医師、ならびに近隣医療機関への適切な紹介を行う。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応          具体的な体制と方略（当院で取り扱う問題の大半はCommon diseaseではあるが、時に稀な疾患を抱えるケースや診断困難なケースに遭遇する。家庭医集団での検討、常勤の放射線科読影医、大学病院より外来支援に来る医師への相談の機会を利用し対応している。）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 4～5 ）日／週          ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。          ※休日は含まない。</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。</p>	
内容	週に1回、大曲診療所へのワンデイ・ハーフデイバック
日数	1日/週

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名1	島根県立中央病院	病院病床数（ 634 ）床	診療科名（ 総合診療科 ）
領域別研修（内科）における研修期間		（ 6 ）カ月	
指導医氏名	増野純二	臨床経験年数（ 21 ）年	
有する認定医・専門医資格	内科学会総合内科専門医、プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医、リウマチ学会専門医、消化器病学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が50床以上ある。（ 210 ）床			
■内科常勤医が5名以上いる。（ 38 ）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（ 24 ）名			
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週 ※本研修（内科）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
内科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで） ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			
内容	必要により各専門科の外来研修可能（調整は必要）		
日数	1日/週		

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名 2	益田赤十字病院	病院病床数 ( 327 ) 床	診療科名 ( 内科 )
領域別研修 (内科) における研修期間		( 6 ) カ月	
指導医氏名	岡本 栄祐	臨床経験年数 ( 14 ) 年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医		
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が 50 床以上ある。( 61 ) 床			
■内科常勤医が 5 名以上いる。( 7 ) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条 (5) に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。( 5 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※本研修 (内科) は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
内科 (本研修) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週 1 日まで) ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、小児科は除く。			
内容	1 日/週開催の内科カンファレンスにおいて、症例検討やレクチャー等を実施。(他診療科医師も参加し、多方面からの意見交換ができる)		
日数	1 日/週		

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名	出雲市立総合医療センター	病院病床数（ 199 ）床	診療科名（ 内科 ）
領域別研修（内科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	結城 美佳	臨床経験年数（ 19 ）年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、 日本カプセル内視鏡学会認定医		
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が50床以上ある。（ 57 ）床			
■内科常勤医が5名以上いる。（ 7 ）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（ 4 ）名			
週当たり研修日数：（ 4~5 ）日/週 ※本研修（内科）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
内科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで） ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			
内容	必要により各専門科の外来研修は可能（調整は必要）		
日数	1日/週		

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-4. 領域別研修：小児科			
研修施設名 1	島根県立中央病院	病院病床数（ 634 ）床	診療科名（ 小児科 ）
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	成相昭吉	有する専門医資格（日本小児科学会専門医）	
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。（ 8 ）名			
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週			
※小児科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。			
※休日は含まない。			
小児科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）			
※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。			
内容	必要により各専門科の外来研修可能（調整は必要）		
日数	1日/週		

研修施設名 2	隠岐島前病院	病院病床数 ( 44 ) 床	診療科名 ( 小児科 )
領域別研修 (小児科) における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名	白石裕子	有する専門医資格 ( 日本小児学会専門医 )	
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。 ( 1 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※小児科 (本研修) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
小児科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容	内科研修・地域医療研修		
日数	1日/週		

研修施設名 3	隠岐病院	病院病床数 ( 115 ) 床	診療科名 ( 小児科 )
領域別研修 (小児科) における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名	樋口 強	有する専門医資格 ( 日本小児学会専門医 )	
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。 ( 1 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※小児科 (本研修) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
小児科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容	内科研修・地域医療研修		
日数	1日/週		

研修施設名 4	邑智病院	病院病床数 ( 98 ) 床	診療科名 ( 小児科 )
領域別研修 (小児科) における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名	藤脇 建久	有する専門医資格 ( 日本小児学会専門医 )	
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。 ( 1 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※小児科 (本研修) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
小児科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容	内科研修・地域医療研修		
日数	1日/週		

<b>6-4. 領域別研修：小児科</b>			
研修施設名 5	益田赤十字病院	病院病床数 ( 327 ) 床	診療科名 ( 小児科 )
領域別研修 (小児科) における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名	三浦 勤	有する専門医資格 (日本小児科学会小児科専門医)	
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。 ( 4 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※小児科 (本研修) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
小児科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容	周産期カンファレンス		
日数	1日/週		

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名 1	島根県立中央病院	病院病床数 ( 634 ) 床	年間救急搬送件数 (3,900) 件
指導医氏名	新納 教男	有する専門医資格：日本救急医学会救急科専門医、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本航空医療学会認定指導医 厚生労働省麻酔科標榜許可	専従する部署 (救命救急科)
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように)			
<input checked="" type="checkbox"/> <b>ブロック研修</b> → 領域別研修 (救急科) における研修期間 ( 3 ) カ月  <input checked="" type="checkbox"/> <b>兼任研修</b> → どの研修と組み合わせるか (中央病院研修中の全期間可能、ブロック研修とも組み合わせ、ブロック研修3か月相当の期間) 週当たり研修日数 ( 1 ) 日、研修期間 ( 3-18 ) カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に1000件以上)			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科 (本研修) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
救急科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容	必要により各専門科の外来研修可能 (調整は必要)		
日数	1日/週		

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名 2	益田赤十字病院	病院病床数 ( 327 ) 床	年間救急搬送件数 ( 2333 ) 件
指導医氏名	佐藤 真也	有する専門医資格 (日本救急医学会救急科専門医、臨床研修指導医)	専従する部署 (救急外来)
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように)			
■ブロック研修 → 領域別研修 (救急科) における研修期間 ( 3 ) カ月			
<input type="checkbox"/> 兼任研修 → どの研修と組み合わせるか ( ) 週当たり研修日数 ( ) 日、研修期間 ( ) カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
<input type="checkbox"/> 救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科 (本研修) は週に 4 日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
救急科 (本研修) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週 1 日まで) ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修 I・II、内科は除く。			
内容			
日数	0 日/週		

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・選択別	ブロック・兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と診療科名	指導医氏名
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 外科	金澤旭宣
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 整形外科	勝部浩介
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 精神神経科	狭間玄以
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 産婦人科	栗岡裕子
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 皮膚科	辻野佳雄
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 泌尿器科	川上一雄
眼科	<input type="checkbox"/> 必修	■ブロック	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院	渡邊正樹

	■選択	■兼任			眼科	
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 ■選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 耳鼻咽喉科	木村光宏
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 ■選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 放射線科	児玉光史
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 ■選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 中央診療部	高下成明
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 ■選択	■ブロック ■兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 リハビリテーション科	永田智子
その他 (内科サブスペ シャリティ)	<input type="checkbox"/> 必修 ■選択	■ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( 1 ) 日/週	(1-3) カ月	島根県立中央病院 内科	伊東康男
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		

## 7. 専攻医の評価方法

※形式的評価と総括的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

※形式的評価（評価頻度・評価者・評価方法）

直接的観察法、カルテレビューによる評価、学会発表・論文による評価（研修期間中に、プライマリ・ケア、地域医療・家庭医療に関する複数回の学会発表を目標とし、1編以上の論文執筆を行うことが望ましい）、各施設での評価（会議や研修会への参加、横断的な委員会〔ICT、緩和、NST など〕や地域連携パスなどへは積極的に関わることが望ましい）、相互評価法、指導医・スタッフによる多面的評価（360°評価）、ポートフォリオにより行う。

※総括的評価（評価時期・評価者・評価方法）

研修委員会にて研修目標の到達について総括的評価を行う。

※研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

全研修終了時に、研修委員会にて研修目標の到達について総括的評価を行う。また、日本プライマリ・ケア連合学会専門医試験の結果も総括的評価となる。

## 8. プログラムの質の向上・維持の方法

※質向上や維持のための情報源・その情報をどのように用いるか

研修担当者、研修医からの評価をもとに、定期的に評価して改善する。

島根県立中央病院の臨床研修委員会からの指摘などがあれば適宜修正を加える。

地域医療・家庭医療ネットワークやしまね地域医療の会、島根県自治医科大学卒業医師企画人事委員会で意見交換を行ない、適宜修正を加える。